

令和2年度 兵庫県立伊川谷高等学校 学校評価

教育方針	校訓「自主 協同」のもと、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成するとともに、明るく活気に満ちた校風と地域に愛される学校づくりをめざす。
教育目標	「命」と「人権」を大切にし、夢に挑戦する生徒を育てる。
重点目標	①基礎・基本の定着を図り、生徒の主体性・創造性を育む教育を推進する。また、生徒に自己有用感とともに社会人として必要とされる基礎力、コミュニケーション能力を育み、社会的責任を果たせる生徒を育成する。 ②家庭・地域との連携を密にし、地域に愛される学校づくりを推進する。 ③教職員のコミュニケーションを密にし、「チーム伊川谷」により諸課題を積極的に解決する。

								* A 4点 B 3点 C 2点 D 1点				
領域	標語	分掌	重点目標	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	評価	改善方策	分掌		
総務・生徒指導・保健・進路	魅力発見！	総務	②	開かれた学校づくり	中学生や地域住民に本校の教育活動をPRする。	1	11月の学校説明会を通して、中学生や保護者に本校をPRする。	3.3	オープンハイスクールや学校説明会がより効果的なPRの場となるように、さらに改善をしていく。	総務		
			①	防災教育の充実	生徒の防災意識を高める。	2	新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、避難訓練やシェイクアウト訓練を実施し、防災意識を高める。	3.1	生徒の防災意識を高める取り組みを工夫し、今後も継続して指導していく。			
			③	校内組織の円滑な運営	各部、学年、委員会の流れを把握し、学校組織としての効率性を高める。	3	学校組織の現状を把握し、縦断的な調整役となる。	3.1	各部・学年との連携をさらに深め、より効率的な学校運営を行う。			
			①	読書習慣の確立	図書館の有効利用を考え、本に親しむ習慣を確立させる。	4	図書館便り等を発行し、書物への興味を持たせる。	3.6	今後も継続して指導を行う。			
	未然防止・早期発見・早期対応	生徒指導		①	基本的な生活習慣の確立	担任や、学年の先生とのコミュニケーションを大切にする。挨拶運動や遅刻指導などを通して、生徒達の規則正しい生活習慣の確立を目指す。	5	教務部と連携し、教職員の共通理解のもと、チャイムが鳴ると同時に授業に入る指導体制を全学年で実施する。また、日々の遅刻に関しては、行事日などを重点的に様々な場面において、余裕のある行動を取らせる。反省文などを通して、振り返りさせ、規則正しい生活習慣の確立を意識させる。	3.1	授業へ入るための準備や、授業での集中力の持続などへとつながる行動を自覚させる。「よりよい行動とは何か」を自ら考える力を養わせる。日々の生活において自分の考え方が遅刻という結果として表れている場合は、改める点を確実に考えさせて、自ら行動し、約束を守るという結果に反映させていくように促す必要がある。	生徒指導	
				②	規範意識の醸成	校則をきちんと理解して守らせる。頭髪・服装指導や交通安全指導などを通して、規範意識を高める。	6	各学年・各部の教職員の協力を得て、毎朝、生徒昇降口付近でのあいさつ運動を利用して、服装指導や交通安全指導を実施する。	3.2	近隣地域からの苦情が減っていき、褒められるケースが増えるように、様々な機会を通して、今後も粘り強く、継続して指導していく。		
				③	安心・安全な学校づくり	さまざまな機会を通じて、他者への敬愛の心を育み、自分の行動や言動の影響を考え、いじめのない学校を目指す。	7	いじめまたはいじめに準ずる行為が発生した場合、「いじめ対応チーム」が中心となって、職員が連携し、迅速かつ効果的に対応する。	3.3	いじめのない学校はないという前提で、今後もいじめを許さない学校を目指す。自分を大切に、他人に対しても同じ配慮を忘れない。自分の行動や言葉使いが与える影響を考慮することができる人格の育成に努める。		
	Hearty care, Hearty support	保健		①	生徒の成長を目指す支援	生徒との相談を通して心のケアを行い、生徒の内面的な成長を支援する。	8	保健室での相談内容を担任・学年に伝え、個々の生徒の指導に活かせるようサポートする。必要に応じて、キャンパスカウンセラーとの教育相談とも連携する。	3.6	保健室と学年・担任、キャンパスカウンセラーとの連絡を密にし、必要な情報を共有し個々の生徒に有効な指導が行えるようにする。	保健	
				②	保健・安全	正しい生活習慣を身につけ、安全で健康的な生活が保持・増進できるように生徒を支援する。	9	学校医や家庭との連携を密にしながら生徒の健康保持・増進に留意する。個々の症状に応じた応急処置や保健指導・助言を行う。感染症について注意喚起し、集団感染の予防に努める。	3.5	職員・生徒に対する熱中症予防講習会や救急法講習会をはじめとする保健関係の講習会を実施するとともに、毎月発行している保健だよりにおいてその季節・時期に応じた情報を提供し、生徒・保護者に健康に関する注意喚起を行う。		
				③	学校環境衛生	安全で健康的な学校生活が送れるように、学習環境の保全・管理を行う。	10	学校環境衛生検査を行い、必要に応じて迅速な改善を要請する。	3.4	学校医・学校薬剤師と連携を密にし、職員の協力を得て学習の場の良好な環境づくりを推進する。		
	夢にチャレンジ	進路指導		①	進路希望の実現	生徒一人ひとりの自己実現を目指した進路希望の実現をはかる。	11	昼休み等に進路指導室に待機して、生徒の質問に速やかに対応する。	3.0	校務・出張等の関係で難しい時もあるが、今後もできるだけ継続して行っていくように努める。	進路指導	
				②	進路選択の支援	生徒が主体的に進路を選択・決定できるよう支援する。	12	就職・公務員・医療看護系など少数の希望生徒に対して、必要に応じた指導を行う。	3.3	今後も、指導内容の見直し・精選をはかりながら、継続して行っていく。		
③				進路情報の提供	各部・委員会と連携しながら、有用な進路情報を生徒・教職員に提供する。	13	3年間を見通した進路指導を行えるよう、部・学年間で情報交換を行い、研修会を開催する。	3.1	研修会を各学年1回、拡大部会を各学期に1回行っているが、学年の意見も聞きながら、内容の精選・充実を図っていききたい。			
④				進路情報の提供	各部・委員会と連携しながら、有用な進路情報を生徒・教職員に提供する。	14	学年との連携を密にし、とくに第3学年の学年会議に必要に応じて出席する。	3.3	今後も、継続して行っていく。			
教務・情報	新たな前進	教務・情報	①	基礎基本、個に応じた指導	目指す学校像に応じた教育課程を検討する。また、生徒の現状に応じた授業展開（少人数授業、チームティーチング）の工夫を行う。	16	生徒の興味・関心、進路に応じた教育課程を編成し、本校生徒に履修させるべき科目を設定する。	3.2	来年度からは新カリキュラムの先行実施がスタートすることもあり、新カリキュラムに向けた教育課程の検討を進めていく。	教務・情報		
			②	学力向上	シラバスを作成することで、各教科の目標や評価基準を明確にし、授業を年中公開する。また、各教科における学力向上に向けた取り組みについて共通理解を図る。	17	生徒の力に応じた基礎学力をつけるために少人数授業、習熟度別授業、チームティーチングを実施する。	2.9	少人数授業、習熟度別授業、チームティーチングの授業を整理し、より効果的な講座編成を目指す。			
			③	情報管理体制の確立	教職員のICT活用能力の向上を図る。	18	教室環境整備、授業規律の確立の一助として、年中授業を公開するとともに、年間2回「伊川谷学び合い週間」を実施する。また、研究授業、研究会を実施する。	3.2	教師が互いに授業を見て意見交換することで、より質の高い授業が可能となる。また、研究授業、研究会については若手教員の育成という意味でも重要な取り組みと考えている。できるだけ負担のないように運営を行うよう工夫しながら来年度も実施していく。			
			④	本校の広報	インターネットを活用して、本校のPRを図る。	19	シラバスを作成し教室に掲示し、各教科の目標や評価基準を提示する。また、生徒の興味・関心に応じた選択科目の履修を促す。	3.1	家庭学習の習慣化、基礎学力の向上を目指し、来年度も学力向上の取り組みを継続する予定。			
			⑤	本校の広報	インターネットを活用して、本校のPRを図る。	20	総合的な探究の時間に関する目標設定や指導計画について検討する。	2.9	進路に対する意識を高め、2学年において学力向上の取り組みを継続する予定。			
			⑥	本校の広報	インターネットを活用して、本校のPRを図る。	21	教職員の情報活用能力、情報セキュリティ能力及びモラル向上のため日常の相談体制を充実させる。	3.0	今年度の校内研修会は普通教室でのICT活用をテーマに1度だけ実施したが、来年度はさらに校務での情報活用、教育の情報化における著作権などもテーマに入れながら教職員のさらなるICT活用を目指すとともに、環境整備にも力を入れていきたい。			
			⑦	本校の広報	インターネットを活用して、本校のPRを図る。	22	校務支援システムを運用し、出欠、成績管理、指導要録、調査書の作成を一括して行う環境を整える。	3.4	今年度は2学期からの校務支援システムの導入により、成績処理、出欠管理についてのデータ共有を進めることができた。来年度はさらに生徒情報の共有において校務支援システムのさらなる活用、各部署との連携を進めていきたい。			
			⑧	本校の広報	インターネットを活用して、本校のPRを図る。	23	本校のWebページに特色、学校行事、部活動等多様な情報を発信する。	2.9	ウェブサイトの情報が更新されていないという課題があるが、本来ウェブサイトが発信すべき情報の整理を行い、ウェブサイト、メール、コンテンツ配信ツールの適切な使い分けを行っていく。			
			⑨	基礎学力の向上・基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣を確立させ、規律ある生活を自ら送るようにさせ、学校生活のリズムに慣れるとともに授業に集中して取り組ませる。	24	教わるという受け身姿勢からの脱却および、学ぶ姿勢を見せるための環境作りを行う。生徒同士の教え合い、学び合いを大切に人間関係の構築を目指す。	3.2	進路講演会や進路別ガイダンスを複数回行うことにより、各自の進路目標も定まりつつあるようであり、学習意欲にもそれが燃え上がる生徒も徐々に増えてきたようである。来年度は自らの進路に向けて学習探究する時間をさらに増やせるよう指導していききたい。		1学年（45回生）	
			⑩	進路目標の発見と実現に向けて	自らの可能性を信じ、将来への目標を持ち、それに向かって努力する姿勢を育む。	25	知識の充足だけでなく、たくさんの経験を元にしたライフプランの構築を行う。積極的な姿勢による失敗体験を承認し、次に活かす教育を行う。日々の楽しい学校生活の演出により、生徒自身の活動能力を最大限に引き出す。	3.1	心身の自己管理ができる生徒が多く家庭も協力的であるので欠席が一年間を通して少なく、学校での学習の継続がほぼ出来ているように感じる。今後の課題として進路実現を見据えた家庭学習の充実と資格試験へのチャレンジを勧め、目標達成のため自ら学習探究する行動が出来るよう指導していききたい。			
			⑪	心豊かな人間性の育成	心豊かな人間性の育成し、自らと他者を尊重しあう態度を養う。	26	教職員・生徒・保護者の三者間における関係作りの構築に積極的に学年通信を活用する。日々の学校生活を効果的に保護者に伝えることで、教師と保護者が協調して生徒の育成を行う。生徒の自己肯定感を伸ばす活動を積極的に行う。	3.2	概ね良好な人間関係が構築できたようであるが、一部に友人関係でトラブルがある。ほとんどが第三者の不確かな情報やお互いの理解の違いに振り回されているようである。面と向かってコミュニケーションを図ることを中心としてより良い関係を築くようにつなげていきたい。			
			学年経営	磨きをかける		①	基礎学力の向上・総合的な学力の伸長	基礎学力の向上を目指し学校生活と家庭学習の中で総合的な生きる力の確立を目指す。	27		十分な準備のもとに授業に臨み、授業において理解することに全力を注ぎ、かつ家庭学習の時間も確保するなど知識として多くのものを身に付け自分の進路目標と照らし合わせ、さらに深く学ぶ姿勢を育む。	3.2
②	進路目標の実現に向けて	将来のあるべき姿に向けて目標を持ち、真摯に努力する姿勢を育む。				28	多くの情報を集め自らの適性を探り、将来の夢・目標を確定しその実現のために様々な活動を積極的に実践していくようにさせる。	3.3	進路別ガイダンスを複数回行ったことにより、各自の進路目標もほぼ定まったようであり、学習意欲にもそれが燃え上がる生徒も徐々に増加している。来年度は進路実現に向けて深く学ぶ時間をさらに増やすようしていきたい。			
③	基本的な生活習慣の確立・望ましい人間関係の構築・規範意識の醸成	前年に培った基本的な生活習慣、学習態度、校内・外でのルール、マナーに基づいた行動、友人関係をさらに深化させる。				29	コロナウイルスの影響により、新しい習慣として多くのものに変化があるが、それとうまく対応しながらも基本的な事柄を大切に日々の生活をおくり、共に協力・尊重しながら有意義な学校生活を送る。	3.2	概ね良好な人間関係を構築しているが、やはり一部に友人関係でトラブルがある。ほとんどが第三者の不確かな情報やお互いの理解の違いに振り回されているようである。面と向かってコミュニケーションを図ることを中心としてより良い関係を築くようにつなげていきたい。			
自律			①	基礎学力の向上・総合的な学力の伸長	基礎学力の定着を目指し、学校生活の中で総合的な生きる力の確立を目指す。	30	毎日の授業を大切に小テストや定期テストをペースメーカーとして基礎学力を定着させる。そのうえでアドバンス学習へと進化させる。	3.2	最高学年の生徒であるとの自覚を高めるとともに進学就職に関わらず社会に出る時期が近いことを踏まえた指導を行い、一層の規範意識と自主性の育成を推進する。また基本的な生活習慣が確立できないと受験勉強にも取り組みにくいことを関連させて指導する。	3学年（43回生）		
			②	進路目標の実現に向けて	自らを顧みるとともに将来への確固たる目標を持ち、それに向かって真摯に努力する姿勢を育む。	31	教科・総合的な学習・LHRの関連を重視するなかで自ら調べ自ら考える力を身に付け、各自の進路実現に向けて全力で取り組み、自分自身を大切に生徒を育てる。	3.2	人生における高校生活の重要性を認識し、厳しい現状を把握して、ベストの成果を目指して頑張り抜くことのできる生徒を育てる。			
			③	基本的な生活習慣の確立・望ましい人間関係の構築・規範意識の醸成	「厳しさと優しさ」「自由と規律」「個性と社会性」の相反する項目のバランスをとりながら、規則正しい生活を送り学習を高校生活の中心に据えることができる生徒を育てる。	32	規則正しい生活リズムを確立するとともに、新型コロナウイルスに感染しない、感染させないことを日々強く意識して過ごす。予習・復習を中心に家庭学習が習慣化し、自宅学習が当たり前になる。友人との触れ合いの中で望ましい人間関係作りに努め、やるべきこと、やっつけられないことの区別をはっきりとつける。	3.0	新型コロナ感染者を一人も出さずに終えることが出来た。学校行事で得た優秀な成績や良好な評価を、指導につなげる。最高学年の生徒として、出来て当たり前であることを確実にできるよう指導するとともに、自ら進んで出来るよう自覚を促す。			